活動報告

「落語鑑賞会」桂團治郎氏・桂米紫氏・桂南天氏の落語を聞いて

追手門学院大学笑学研究所所員、社会学部・講師　横田　　修

その日、追手門学院大学に「笑い」の花が咲きました。

笑学研究所が主催する落語鑑賞会は、研究員にとっては「笑い」に関するアンケートを取る場です。しかしそれ以上に、寄席に行かずともプロの落語家の噺を楽しめるという意味で、大変有り難く、贅沢な機会でありました。社会学部の講義「文化と社会」を履修する 269 名の一年生と教職員、さらに一般のお客様と共に体験した落語は、三名の噺家（桂團治郎氏、桂米紫氏、桂南天氏）による素敵な時間であったのです。

日時：2018 年 1 月 12 日（金）3 限（13 時 20 分～14 時 50 分）

会場：追手門学院大学・学生会館ホール

生で体験する落語の魅力

当初、噺家の皆さんに向けて所長の高垣より、学生達が授業で映像鑑賞を済ませている「狸賽（たぬさい）」を演って欲しいと希望を出していました。しかし、噺家がどの噺をするかは基本的にはその日その場の様子（雰囲気）で決めるため約束はしかねるとのことでした（実際には桂團治郎氏が狸賽を演ってくださいました）。

ここでいう、その日その場の様子（雰囲気）というものを、噺家の皆さんはどのように捉えているのでしょうか。桂團治郎氏、桂米紫氏、桂南天氏の順番でご登壇頂きました。会場の様子だけでなく、先の出演者の内容を聞いてから噺を決めることもあるでしょう。仮に各々が 10 のレパートリーをお持ちとするなら、10×10×10 で 1000 通りの組み合わせが考えられます。枕だって観客次第で変えてくるに違いありません。例え同じメンバーによる落語会を鑑賞したとしても、これなら飽きることはないでしょう。もちろん、ある程度のパターンはあるのだと思いますが、その組み合わせを楽しむ通な方も、中には居るのではないでしょうか。

落語とは、寄席や落語会に足を運んで、生で観てこそその真価を享受することができます。この点は演劇等、他の舞台作品にも通じるところなのですが、さすがに当日内容を決めることはありません。YouTube などネット・メディアを利用し、気に入った噺家の気に入った噺だけを視聴する

のも悪くありませんが、それだけでは、落語の面白さのごく一部しか享受できないのです。

「イメージの共有」と落語のマクラ

ご存じの通り、落語は一人で複数の人物を演じます。当然、彼ら・彼女らのやり取り（会話）を聴きながら、観客は話の内容とコンテクストを理解しなくてはなりません。この辺りも落語と演劇は似ています。上手く行かないと観客は笑うことができない上に感動や関心も望めません。例えば故・蜷川幸雄氏の舞台では、冒頭に大きな効果音や音楽が流れることが多々ありました。実はこれは観客と舞台が一体になることを促す演出方法の一つなのですが、演劇の世界では、これを「イメージの共有」と呼びます。落語家と観客の間でも当然、この「イメージの共有」が大切になります。

今回お招きしたお三方のお話は以下の様でした。

桂團治郎氏　狸賽（たぬさい）
桂米紫氏　手水廻し（ちょうずまわし）
桂南天氏　動物園（どうぶつえん）

落語の冒頭にはマクラが付きものですね。観客と演者が「イメージの共有」をするために、マクラは大変重要な役割を担っています。米紫氏は、芸人の宮川大輔に顔が似てるという大変分かりやすいツカミから、学生達も利用する電車で出会った、ある若い男の悲劇、そして旅先の言葉が分からないという流れから手水廻しへ繋げたと記憶しています。米紫氏のマクラは、手水廻しを知らない私や学生にとって大変有り難く、そして、本当に無くてはならないマクラでした。

一方、私が米紫氏のマクラに増して、大変素晴らしく感じたのは南天氏のマクラでした。私の理解では、最初は観客に「聞いたことありませんか？」と問いかけつつ、古今東西の様々なダシャレやジョークを披露してました。そして学生がドッと湧いた瞬間を見逃さず、一気に落語・動物園を始めます。もちろん落語の内容も素晴らしかったのですが、私はオチが終わった後に衝撃を受けました。メインの落語が、マクラで行っていたダシャレやジョークの披露、その続きだったのです。後で調べたところによると、落語・動物園の原話は外国に広まるジョークで、2代目桂文之助が落語に仕立てたのだとか。長い長いマクラを終えて、ぷいっと立ち去る南天氏に思わず「おい、それで本編は？」とツッコミを入れたくなるような、大変な置いてけぼり感に私は痺れてしまいました。

今回の米紫氏の他、多くの落語家達のマクラが「イメージの共有」のため必要な段取りだとするなら、南天氏のマクラは、マクラと落語の境目が無く、ただ演者とやり取りをしているだけで気づいたらお話の世界に取り込まれてしまうという、まるで段取り破りのマクラなのに、他のマクラ以

上の広がりを感じて、私は大変惹かれたのです。

おわりに

短い体験でしたが、学生達にとっても、生の落語を楽しむことのすばらしさを感じ取れる大変良い機会であったと思います。三人の落語家の皆様、本当にありがとうございました！

写真：落語鑑賞会の様子（左より　桂　團治郎 氏、桂　米紫 氏、桂　南天 氏）

「落語鑑賞会」特別観覧

～プロの落語を生で見てみませんか？～

社会学部「文化と社会」の授業です。履修生以外にも観覧募集をいたします。
落語家3名による豪華プログラム。ぜひこの機会にプロによる生の落語をご覧ください！

日時：2018年1月12日（金）3限
（13:00開場　13:20開演）

学生限定！

場所：学生会館 大ホール
定員：80名（先着順） ※鑑賞後にアンケートへのご協力をいただきます。

出演：桂 團治郎（かつら だんじろう）　桂 米紫（かつら べいし）　桂 南天（かつら なんてん）
三味線・大川貴子

★お申込み先★
タイトルを「落語会申込み」とし、氏名、学籍番号、
連絡先のメールアドレスをご記入の上、以下にお送り下さい。
showgaku@otemon.ac.jp（笑学研究所）
お問合せ：072-665-5024
ＱＲコードからメール作成ができます！→

主催：追手門学院大学 笑学研究所　**協力：株式会社 米朝事務所**

「落語鑑賞会」特別観覧　チラシ